

平成29年度 有田町立大山小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「おいに学び やさしく まっすぐ伸びる」大山っ子の育成	①児童が、自分のよさを見つけ、将来に向かってがんばることのできる学校 ②児童が、自ら学び、楽しく活動できる学校 ③児童が、ルールを守り、安全に過ごすことのできる学校 ④家庭や地域に開かれた学校

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①児童が、自分のよさを見つけ、将来に向かってがんばることのできる学校

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実	・道徳教育を通して、将来の夢や希望を持たせる。 ・自分と他人との違いを認め、自分のよさを85%以上の児童が感じることができている。 ・たてわり活動や異学年間交流を図る。 ・人間関係作りを重視した学級作りを行う。	・道徳の時間の確保・充実に努める。特に「考える道徳」の実践を継続する。 ・様々な活動後に振り返りを行い、適宜承認・称賛を行うようにする。 ・異学年交流の場を通して、上級生のリーダーとしての意識を育て、自信や誇りを高めることで、自治能力も高めていく。 ・「Q-Uテスト」を分析し、個に応じた指導を充実させる。	B	・「友だちの気持ちを考えて行動している」では87.5%、「自分や友だちのよさを見つけることができる」では83.4%の児童が回答した。 ・縦割り遊びを毎月2回ずつ実施することでよりよい関係作りができた。	・道徳の時間の充実に努める。特に「考える道徳」の実践を継続する。 ・様々な活動後に振り返りを行い、適宜承認・称賛し学習の内容を充実させる工夫をする。 ・各グループのメンバー構成には、より配慮をして取り組ませる。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめ問題の早期発見・早期対応体制の充実	・普段の観察や児童とのコミュニケーションを強化し、保護者やスクールカウンセラーとの連携を図る。	・年間を通して調査(職員・児童・保護者)を行い、実態把握に努める。 ・週1回の生徒指導連絡会で、気になる児童の情報共有を行い、組織として対応する。 ・「Q-Uテスト」を年間2回実施し、その結果を活用することで、個に応じた指導や学級経営の充実に努める。	A	・年2回の実態調査と月1回「心のアンケート」を実施したり、普段の観察や対話を強化したりして、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めることができた。	・①定期的な実態調査、②職員による普段の観察や対話等の強化、③生徒指導連絡会での情報交換、④保護者や関係機関との連携などに努める。

②児童が自ら学び、楽しく活動できる学校

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・「活用力」の向上 ・「分かる授業」の工夫、実践 ・キャリア教育への取り組み	・「授業が分かる」と回答する児童の割合を90%以上にさせる。 ・児童が主体的に活動し、言語活動を通して思考力や表現力を高めるような授業スタイルを作る。	・学習状況調査結果の分析を行い、児童のつまずきや授業改善のポイントを明らかにする。 ・授業中「めあて」と「まとめ」を必ず明示する。 ・授業において、課題解決型の学習過程を基本とし、「あいあいタイム」の場を確実に設定する。 ・授業中や「読書タイム」、「学力向上タイム」、「さよならタイム」を効果的に活用し、基礎学力の向上に努める。	B	・児童の実態に応じて個別指導をしたり、学習内容に応じて授業形態を工夫したりしたが、「授業が分かる」と回答した児童の割合は、82.3%であった。また、1月に実施したCRTテストの結果は、1～5年生においては全国平均を上回った。	・今年度の具体的方策を継続するとともに、更なる充実に努める。 ・家庭学習習慣を含め、児童の「自学力」の育成を目指すための方法等を探る。 ・校内研究の充実に努める。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT機器の効果的な活用	・電子黒板の活用場面を工夫し、より効果的な活用を目指す。	・デジタル教科書の効果的な提示により、児童の興味・関心を高め、かつ、内容理解を図る。 ・研究授業の学習指導案の中にICT活用場面を位置づけ、事後研でも効果的な活用法について情報交換の場を設定する。 ・長期休業期間中に研修会を実施し、授業の中で効果のあった活用場面を紹介しあう。	A	・全職員が、普段にデジタル教科書や電子黒板、書画カメラなどのICT機器を活用している。活用法については、休み時間等に情報交換ができていた。	・効果的なICT活用方法等を、普段に情報交換できる場を設定する。
教育活動	○特別支援教育並びに教育相談の充実	・特別支援教育並びに教育相談の体制の確立	・校内委員会が機能し、児童に十分に支援できたことと回答する教職員を90%以上にさせる。	・「報告・連絡・相談」の徹底を図るとともに、水曜日放課後の生徒指導連絡会で情報交換を継続して行う。 ・保護者並びに関係機関と連携し、学校全体で個に応じた支援を行う。 ・個別の支援計画を作成し、継続して活用する。 ・必要に応じて支援会議(ほほえみ小委員会)を開き、対応していく。	B	・「支援を必要とする児童について理解し、支援や指導に取り組んでいる」と回答した教職員が86.8%。 ・保護者並びに関係機関と連携し、個に応じた迅速かつ適切、丁寧に対応することができ、校内体制がきちんと機能できている。	・「報告・連絡・相談」の徹底を図るとともに、水曜日放課後の生徒指導連絡会で情報交換を継続して行う。そのことにより、一人一人の児童をよく見つけ、丁寧に対応する教育を推進する。
教育活動	○読書の推進	・児童の読書習慣の確立	・年間図書貸出冊数を低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊以上の児童を85%以上にさせる。	・個人の図書貸出冊数の目標を設定させたり、毎週月・木曜日の「読書タイム」や年2回の「図書まつり」を位置づけたりして、読書意欲を喚起する。 ・月1回のノーテレビ・ノーゲームデーの取組を継続し、家庭での読書を推進する。	A	・年間図書貸出冊数については、1・2・4年生については100%、3・5・6年生は90%以上の達成率だった。また、「進んで読書をしている」と回答した児童は、80.7%であった。個人の目標設定や図書館祭り等読書への意欲喚起につながった。	・今年度の具体的目標を継続し、読書の推進に努める。 ・月1回のノーテレビ・ノーゲームデーの取組を継続し、家庭での読書を推進する。

③ルールを守り、安心・安全に過ごせる学校

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・運動習慣の改善や定着 ・望ましい食習慣の形成	・校内の体育的行事の充実。 ・「進んで外遊びや運動(持久走やなわとびなど)に取り組んでいる」と回答する児童の割合を80%以上にさせる。 ・健康教育推進のため、保健	・「みんなで遊ぶ日」を設定したり、持久走やなわとびカードを配布(活用)したりして、外遊びや運動を奨励する。 ・年間2回「おにぎり弁当の日」を設定し、家族で食について考える機会を設ける。 ・保健便りや給食便りを定期的に発行し、健康増進の啓発を図る。	A	・具体的目標の達成率は84.8%であった。一方で外遊びや運動に対して抵抗を感じている児童もいる。	・今年度の具体的方策を継続するとともに、新しい遊びや運動を紹介するとともに運動することの楽しさを味わわせる。
教育活動	○生活指導の充実	・気持ちの良い生活習慣の確立	・生活のめあて「大きな声で自ら挨拶」「やりぬこうたてわり掃除と集団登校」「守ろう学校のまきまり」ができる児童を90%以上にさせる。	・生活のめあての内容を、毎月の重点指導内容に位置づけたり、良くできていることについては随時承認・称賛したりする。	A	・具体的目標の達成率は87.9%である。生活指導上気になることがあると、その都度指導してきた。児童は気持ちの良い生活習慣を身に付けつつあり、落ち着いた生活ができるようになった。	・今年度同様、異学年交流(縦割り活動や集団登校など)の場を設定し、上級生のリーダーとしての意識を高める。そのことで自治能力を高め、児童に自信や誇りを持たせる。
学校運営	○危機管理及び職員の資質向上	・危機管理体制の整備	・避難訓練、防犯教室、交通安全教室等を実施する。 ・安心、安全な学校づくりに努める。	・生活部で計画し、外部団体等の協力を得ながら、より効果的な訓練等を実施する。 ・安全点検等を定期的に行い、危険個所の把握と改善に努める。 ・実践的な研修の場を設定したり、ワークショップ型の研修方法を取り入れたりして職員の参画意識を高め、職員連絡会等の時間を使って、情報を提供したり考える場を設けたりする。	A	・「危機管理意識をもって児童の安全教育を行っている」は、81.3%の回答結果だった。 ・計画的に各種訓練を実施し、見直しをしてきた。	・今年度に引き続き、いろいろな場面を想定し、より実践的な研修の場を設定する。 ・職員連絡会等の短い時間を使って、情報を提供したり考えさせる場を設けたりする。

④家庭や地域に開かれ、信頼される学校

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○「地域に学ぶ」教育(大山学)の推進	・地域の「ひと・もの・こと」の活用	・意欲的に地域に学ぶことができたことと回答する児童を80%以上にさせる。	・各教科や総合的な学習の時間などを意図的に関連づけ、児童の思いや願いを考慮し、体験活動を重視した学習を仕組む。	A	・「意欲的に地域に学ぶことができた」と回答した児童は、83.5%であり、目標を達成できた。	・今年度の体験活動を重視した学習を基本に、児童の思いや願いを考慮した学習を仕組む。
学校運営	○情報発信	・学校からの情報発信・情報収集	・「学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合を85%以上にさせる。	・学校便りや保健便りなどのお便りを定期的に発行したり、ホームページなどで学校の様子を知らせたりする。また、保護者へのメール配信機能「はなまる連絡帳」を効果的に活用していく。	B	・回答した保護者の割合は、「学校の様子がよく分かる」85.5%、「授業参観や懇談会へ参加している」80.3%であった。学校の教育活動への関心が高い。	・保護者へのメール配信機能「はなまる連絡帳」を効果的に活用したり、授業参観等の行事の在り方を工夫したりして、さらに保護者へ学校の様子を理解してもらおうとする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○学校の対応	・保護者の思いや願いへの対応	・「電話や訪問時に、いつも親切(誠実)に対応している」と回答する保護者の割合を90%以上にさせる。	・保護者の願いや要望等については、「迅速・誠実・丁寧」を合言葉に組織として対応することを徹底する。	A	・具体的目標の達成率は90.2%であり、保護者の思いや願いにはきちんと対応している。	・今後も保護者の願いや要望等については、「迅速・誠実・丁寧」を合言葉に組織として対応したい。そのために「報告・連絡・相談」体制を明確にする。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○今年度重点的に計画し取り組んできたことは、保護者や児童へのアンケート結果から、概ね達成できたことが伺える。また、保護者アンケートで「今まで通りに」とか「今も十分だが、さらに上を目指してほしい」等「保護者の声」をたくさんの方からいただいた。これは、本校の教育活動が保護者や地域の方々からある程度信頼を得ているものと考えられる。さらに、本校教育目標の実現に向けて、全職員で共通理解・共通実践できる体制が整っているとも見える。
○来年度も地域に開かれた学校として、適切に情報を発信し、地域に学ぶ教育の推進に努めたい。本校教育目標を柱に、児童一人一人を大切に教育を進め、実態に応じた学力の向上、道徳教育の推進、健康・体力作り等にさらに力を入れ、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成に努めたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目